

平成 29 年 4 月 28 日

平成 28 年度 地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 教養教育機構

氏 名 瀬戸美奈子

活動テーマ	鈴鹿市における学校・教育委員会・大学が連携した不登校対策の推進
実施期間	平成 28 年 6 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>鈴鹿市内の中学校において不登校対策を主に担っている教員（教育相談担当教員、適応指導教室担当者など）に不登校支援の現状と課題、および適応指導教室と学校との連携についてインタビュー調査を行った。調査結果をもとに、鈴鹿市教育委員会と不登校支援の有り方や教員対象の研修内容について検討し、市内中学校の不登校支援担当者ミーティングを開催した。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>鈴鹿市小中学校教職員の年齢構成を調査した結果、学校におけるミドルリーダーとしての役割が期待される 30 代、40 代の割合が少ないことが明らかになった。各学校の不登校支援担当者を集め、定期的にミーティングを開催することが、不登校対応の中核を担うミドルリーダーを養成することにつながったと言える。また定期的なミーティングの機会に各学校の状況を情報交換することによって、それぞれの学校課題の見直しや、不登校対応のための組織改善に貢献できた。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>不登校対応の現状と課題を分析するための基礎データ提供、およびインタビュー調査にあたっての各学校への連絡などを共同実施者である教育委員会指導主事が担当し、インタビュー調査の分析や統計的データ分析を報告者が担当した。またデータの分析結果をもとに、ミーティングでの研修内容や施策の方向について教育委員会と協議し、改善をはかっていった。年度末には一年間の活動の総括を行い、今後さらに教育委員会と連携しながら不登校対策を推進していくことを確認した。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p> <p>インタビュー調査の分析から、不登校生徒への組織的支援のために、教員養成大学が担う役割について①組織運営に関するコンサルテーション、②若手教員のサポート、③中核となる教員（コーディネーター）の養成を行っていく必要性が示唆された。報告者が担当する教職科目の授業で、学校現場での課題を取り上げ、課題解決に向けたアクティブラーニングを取り入れた授業実践を展開した。こうした取組が新任教員の資質向上の基盤となると考えられる。</p> <p>調査や実践の成果については、平成 28 年度日本教育大学協会研究集会で口頭発</p>

表を行い、発表をまとめた論文が推薦論文として日本教育大学協会研究年報（第35集）に掲載された。

（5）イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

鈴鹿市中学校不登校対策担当者ミーティング 4回
実施場所：鈴鹿市適応指導教室、鈴鹿市立平田野中学校、鈴鹿市役所
参加人数：各回10名

（6）これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

鈴鹿市の不登校対応の現状と課題を、学校現場の教員にインタビュー調査を行い、現場の声をもとに分析することによって、地域の課題やニーズを明らかにすることができた。具体的には、鈴鹿市の課題として①不登校支援のための専門性を向上させる教員研修の不足、②スクールカウンセラーの不足、③校内支援体制の構築の3点が課題として浮かびあがってきた。特に教員研修の不足について、教育委員会と協議し、市内各中学校の不登校担当者を集めたミーティングを4回開催し、不登校対応の核となる教員の養成に取り組むことができた。ミーティングではカウンセリングの技法、事例検討、不登校への組織的な対応と連携をテーマに研修を行い、学校現場で抱えている問題解決のための手立てを提供できる内容とした。このミーティングは参加者にも好評であり、29年度以降も継続して開催する予定である。

書式変更：フォント：(英) MS 明朝, (日) MS 明朝, フォントの色：黒

書式変更：フォント：(英) MS 明朝, (日) MS 明朝, フォントの色：黒

書式変更：フォント：(英) MS 明朝, (日) MS 明朝, フォントの色：黒